



在宅医療と介護の連携

第27回

～身近な事例から～

在宅訪問薬剤師と多職種連携

脳梗塞により在宅医療を受けている80歳のAさんは、状態が悪化し、錠剤が飲み込めなくなっていました。家族から、訪問看護師を通して薬剤師に相談があり、服薬ゼリーの利用を提案しました。その後、ヘルパーから「服薬ゼリー



でも飲めない」と再度薬剤師に相談がありました。薬剤師が自宅を訪問し、かかりつけ医と相談の上、薬を砕いて粉薬にしたことで飲めるようになりました。
※錠剤には、砕くことで薬効が低下するものがあります。形状を変える場合は薬剤師にご相談ください。

薬剤師による在宅訪問

在宅訪問薬剤師は、多職種と連携し、自宅を訪問して適切に服薬するための相談・工夫を行っています。利用には医師の指示が必要です。内服に関する心配がある場合は、かかりつけ医・薬剤師・ケアマネジャーにご相談ください。